

ニチレイグループと環境とのかかわり

食品事業

食品事業における主な環境負荷要因は、INPUTでは食品の製造時のエネルギー使用、水の使用、OUTPUTでは製造に伴う廃棄物の排出、エネルギー使用に由来する二酸化炭素の排出、洗浄に伴う排水です。従って、廃棄物の削減やリサイクル、省エネルギー、

水使用量削減などを重要課題として捉え取り組みを実施しています。また、リサイクル関連法(容器包装リサイクル法、食品廃棄物リサイクル法)が次々と施行になり、お客様が商品を使用した後に排出される容器包装の削減も課題となっています。



注1 掲載数値は各事業関連対象事業所の合計値
 注2 工程は代表的な工程事例を掲載
 注3 電力を除いたエネルギーの原油換算値。
 原油換算には省エネ法で定義されている原油換算係数を使用。(ガソリンには、揮発油の原油換算係数を適用。都市ガスは13Aの1.1868kL/千m³を使用)
 注4 CO₂排出量算出には地球温暖化対策促進法の施行令で定義されたCO₂排出係数を使用。(直接排出しない電力購入由来のCO₂排出量も含んでいる。)
 P18「CO₂排出量の実績」は、各事業の主要なエネルギー由来のCO₂排出量なので数値が異なる。
 注5 NOx排出量算出には環境省総合環境政策局環境経済課発行「環境活動評価プログラム-エコアクション21-」に記載してあるNOx排出係数を使用。(電力由来のNOx排出量は除外。)

注6 SOx排出量算出には環境庁大気保全局大気規制課発行「窒素酸化物総量規制マニュアル(改訂版)」に記載してあるSOx排出係数を使用。(ガソリンには、揮発油のSOx排出係数を適用。電力由来のSOx排出量は除外。)
 注7 容器包装廃棄物(容器包装リサイクル法)の排出量は全市販用商品の容器・包装の中で、容器包装リサイクル法の対象となるプラスチック(PETボトル、その他)、ガラス(無色、茶色、その他の色)、紙(紙パック、段ボール以外)の重量を合算。(協力工場生産分商品を含む)
 注8 容器包装廃棄物(容器包装リサイクル法)のリサイクル量は上記排出量のうち法律上当社が再商品化の義務を負う量(再商品化義務量)で、財団法人 日本容器包装リサイクル協会にリサイクル業務を外部委託しているもの。

低温物流事業

低温物流事業における主な環境負荷要因は、INPUTでは低温保管を行う冷凍設備のための電力使用、OUTPUTでは電力使用に伴う二酸化炭素排出、廃棄物の排出です。また、低温輸配送業務に伴う燃料使用、この燃焼に伴う二酸化炭素の排出も環境負荷要因としてあげられます。電力の使用は冷蔵庫内温度管理や外気温度などと密接に関連し、品質保証要求の高まりや温暖化の影響などから増加の方向に向かっています。廃棄物についても、

低温物流センター内での店舗仕分け業務などが増加する中、プラスチック、段ボールなどの包装資材の排出が増加しています。また、食品事業に比べ事業所数が多く、事業所当たりの物量が小さいことも特徴となっています。

上記のような状況をふまえながら、地球温暖化防止、循環型社会形成が社会的課題となる中、省エネルギー、廃棄物削減・リサイクルを課題として捉え取り組んでいます。

